

二十数年前、日本道路公団が実験した事実　これこそは漢字教育の重要性をズバリ示唆しています。

日本道路公団は、道路標識をつくる時に「東京」「とうきょう」「TOKYO」など三種類の標識をつくりました。

ドライバーにとって、地名を表す標識を早く正確に認識するにはどの表記がよいかを実験しました。道路標識を読み取るのに、時間がかかるのは致命的な欠陥です。事故を誘発しかねません。一瞬で読み取れる文字でなければいけないのです。

漢字とかなとローマ字でどれくらい違いがあると思いますか？

ローマ字で「TOKYO」と書かれた標識は、1.5秒の時間をかけないと読み取れませんでした。かなで書かれたものは0.7秒、ローマ字の二分の一です。それに対して、漢字で書かれたものは0.06秒で読み取れることが明らかになったのです。何とかなの10倍の速さです。

この実験結果を踏まえて、高速道路では漢字で書けるものはすべて漢字で書く、ということになったのです。

なぜ漢字のほうが早く正確に読めるのかというと、かなの場合、一目では読み取れず、一文字ずつ読まなければなりません。漢字は、見

た瞬間に判読できるのです。この差です。

もう一つの例を見てください。

「かわからおおきなももがながれてきました」

これを瞬間的に読み取るのはむずかしいでしょう。

「かわから、おおきなももが、ながれてきました」

句読点を打っても、まだ読みにくさがあります。一字一字読まないという意味がわかりません。

ところが、漢字交じりの文章にすると、見た瞬間にわかります。

「川から大きな桃が流れて来ました」